

## 2017年7月24日 日本テレビ 定例記者会見

### 《 要 旨 》

#### < 発表 >

##### ・ 映画「散歩する侵略者」

9月9日公開の「散歩する侵略者」は黒沢清監督の作品。ぜひ映画館に足を運んでいただきたい。

##### ・「巨人戦全世界配信」リリース

海外でも巨人戦の中継を見られるように、海外専用オンライン配信の新サービスを7月25日からスタートする。日本と台湾を除く全世界でこのサービスを利用できるので海外に知り合いがいたら紹介していただけるとありがたい。日本テレビが新しいサービスを始めることが認知されることで、また新たな需要が増えると思うので、できるだけ多くの人にサービスの開始を伝えたい。

##### ・ 超☆汐留パラダイス！-2017SUMMER-

7月22日(土)から8月27日(日)まで、毎年恒例のイベント「超☆汐留パラダイス！」を開催している。たくさんの催し物をしており、お子さんと一緒にお越しいただきたい。

#### 1. 視聴率動向と編成戦略

##### ・ 視聴率データ

先週の視聴率は三冠王で、18週連続の獲得。年間ではこれまで29週のうち27回、また年度では16週のうち16回全てが三冠王だった。

##### ・ 視聴率戦略、PR等に関して

4月改編は、全体としては結果が出ていると評価している。ドラマに関してはまだスタートしたばかりだが、この先もPRを頑張っていきたい。既に総合視聴率が出ている水曜ドラマ「過保護のカホコ」と土曜ドラマ「ウチの夫は仕事ができない」のタイムシフトや総合視聴率はかなり高い。総合視聴率では毎クール他局のドラマも含め複数本のドラマが15%以上取っている現状はあるが、やはりリアルタイムで見ってもらうことが引き続きの課題だ。ドラマを見てくれるだろう若年層の人たちへのアプローチやコミュニケーションとして、地上波のPRだけではなく、SNSやウェブでの手法について研究を重ね、トライアルも続けていくつもりだ。今回の水曜ドラマはLINEを利用し、AIカホコが視聴者とコミュニケーション

ョンをとる試みもしている。現時点で登録者数が 5 万人を超え、会話数から見てもユーザー満足度が高いという感触を得ている。

## **2. 営業状況**

### **・ 放送収入**

6 月のタイムセールスは 4 月改編のカロリーアップの効果があり、特にレギュラーのセールスについては前年を上回って推移している。スポットは関東地区の市況があまり良くなく、地区投下率は 1 月からずっと前年割れの状況が続いている。その結果、日本テレビも前年割れという状況で少し苦戦している。

### **・ 放送外収入**

映画では 7 月 8 日からスタートした「メアリと魔女の花」に大きな期待を寄せている。米林監督のジブリ退社後初の大型長編アニメということで力も入っており、16 日間の興行を終えて、15 億 4,300 万円の興行収入で、ジブリ時代の「思い出のマーニー」と同水準だ。「それいけ！アンパンマン 29 ブルブルと宝探し大冒険」は 5 億円を目指している。また「22 年目の告白ー私が殺人犯ですー」は 44 日間の興行だが、23 億 4,000 万円で期待を超える大ヒットだ。「名探偵コナン から紅の恋歌」もコナン史上最高の興行収入をあげている。

またイベントでは、音楽ライブイベントを幾つか展開する予定で、大きな収入に結び付けたい。

最後に、日本テレビ開局 65 年記念事業の「ルーブル美術館展」は、来年 5 月から東京、9 月から大阪で開催する。今回は肖像芸術をテーマにしており、彫刻や絵画など幅広い形で、たくさんの人に楽しんでもらいたいと思っている。

## **3. その他**

### **・ 40 回目の節目を迎える 24 時間テレビに関して**

24 時間テレビは今年でちょうど 40 回の節目。総合演出を中心に、これまでにない斬新な企画を集めて、盛り上がる 24 時間テレビにしてくれると期待している。マラソンランナーの発表が遅れているが、マラソンは実施する。それ以外の企画も、これから色々な番組を通じて発表をしていく予定だ。

## ・ NHK の常時同時配信に関して

2019 年を目途に NHK が常時同時配信を始めたい意向を持っていることについて、民放連が 7 月 11 日付で意見書を出している。これまでも NHK と民放の放送における二元体制を維持していただきたいということは常に言ってきた。NHK が常時同時配信にかかる費用があまりにも大規模になると、民放とのバランスが崩れると危惧している。

総務省も強く言っていることではあるが、NHK には民放事業者の理解が得られるような形で進めていただきたい。

もし、本来業務という位置付けに変えるということになれば、通信の世界における NHK の役割、公共性、そういった問題について十分な議論が必要だ。本来業務としての位置付けには、放送法の大きな改正が必要になってくるので、今出ている論点だけではとてもすまないと感じている。NHK の考え方を全体像として示していただいた上で、慎重に議論していきたい。民放事業者だけでなく国民全体が理解できるような考え方を早く示すことが大事だと思う。

NHK は地域制限をかけた通信、配信の実証実験に取り組むと聞いているが、これは地域の民放事業者に対する配慮として必要なことだと思っている。その結果を NHK がきちんと開示することで、地方の民放事業者が、自分たちの配信ビジネスをどうしていくか考える材料になればいいと思っている。民放は NHK のような受信料の収入ではなく、無料広告ビジネスだから、事業性がないものについてはなかなか乗り出せない。現時点で同時配信について、私たちは事業性を見だしにくいと思っはいるが、そういったデータを見て、それぞれの事業者が事業性の有無を改めて判断することになると思う。

### 【出席者】

大久保好男 代表取締役 社長執行役員

中山良夫 取締役 執行役員

福田博之 執行役員 編成局長

(了)